

平成31年度 名古屋大学大学院 工学研究科博士前期課程学生募集要項

平成31年度本研究科博士前期課程（修士課程として取り扱う課程）に入学させる学生を下記により募集する。

1 出 願 資 格

次の各項目のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成31年3月末日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び平成31年3月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成31年3月末日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成31年3月末日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成31年3月末日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成31年3月末日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 平成31年3月末日までに大学に3年以上在学し、本研究科が、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者（ただし、上記資格(1)該当者及び高等専門学校等からの編入学者は除く）
 { (注) 出願資格(9)により出願するものは、11頁の「出願資格(9)により出願する者について」を参照すること。 }
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成31年3月末日までに22歳に達する者
 { (注) 出願資格(10)により出願するものは、13頁の「出願資格(10)により出願する者について」を参照すること。 }

※高等専門学校専攻科を修了見込みの者は、5月17日（木）までに10頁11(5)の照会先まで問い合わせること。

2 募 集 人 員

系	専 攻	募集人員 (名)
化 学 生 命 工 学	有 機 ・ 高 分 子 化 学	34
	応 用 物 質 化 学	34
	生 命 分 子 工 学	28
物 理 工 学	応 用 物 理 学	39
	物 質 科 学	39
マ テ リ ア ル 工 学	材 料 デ ザ イ ン 工 学	34
	物 質 プ ロ セ ス 工 学	35
	化 学 シ ス テ ム 工 学	34

電 気 電 子 情 報 工 学	電 気 工 学	34
	電 子 工 学	47
	情 報 ・ 通 信 工 学	33
機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学	機 械 シ ス テ ム 工 学	66
	マ イ ク ロ ・ ナ ノ 機 械 理 工 学	36
	航 空 宇 宙 工 学	38
エ ネ ル ギ ー 理 工 学	エ ネ ル ギ ー 理 工 学	18
	総 合 エ ネ ル ギ ー 工 学	18
土 木 工 学	土 木 工 学	36

3 願書受付期間

入学者の選抜は、「一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）」により行う。ただし、募集人員の一部について、学業成績優秀者で、志望する専攻での勉学に高い意欲を持つ者を筆記試験免除とする専攻があるので、次の区分に従って出願すること。なお、出願資格(10)による者で、事前審査の結果、出願資格有と判定された者もこの期間に出願すること。

(1) 筆記試験免除を希望する者の願書受付期間

平成30年6月13日（水）から6月14日（木）

受付時間は、9時から16時。

（注）筆記試験免除を希望しない者の受付期間は下記（2）の期間（7月）であるため、注意すること。

(2) 筆記試験免除を希望しない者の願書受付期間

平成30年7月9日（月）から7月12日（木）

受付時間は、9時から16時。

（注）下記〔表〕の、筆記試験免除を実施する専攻を第1志望とする者のうち、筆記試験免除を希望しない者の願書受付期間も、この期間であるので、注意すること。

〔表〕 筆記試験免除を実施する専攻，実施しない専攻

系	専 攻	筆記試験免除	
		実施専攻	不実施専攻
化 学 生 命 工 学	有 機 ・ 高 分 子 化 学		○
	応 用 物 質 化 学		○
	生 命 分 子 工 学		○
物 理 工 学	応 用 物 理 学	○	
	物 質 科 学	○	
マ テ リ ア ル 工 学	材 料 デ ザ イ ン 工 学		○
	物 質 プ ロ セ ス 工 学		○
	化 学 シ ス テ ム 工 学		○
電 気 電 子 情 報 工 学	電 気 工 学	○	
	電 子 工 学	○	
	情 報 ・ 通 信 工 学	○	
機 械 ・ 航 空 宇 宙 工 学	機 械 シ ス テ ム 工 学	○	
	マ イ ク ロ ・ ナ ノ 機 械 理 工 学	○	
	航 空 宇 宙 工 学	○	
エ ネ ル ギ ー 理 工 学	エ ネ ル ギ ー 理 工 学	○	
	総 合 エ ネ ル ギ ー 工 学	○	
土 木 工 学	土 木 工 学	○	

4 出願書類等

	出願書類等	注意事項
①	入学志願票, 受験票, 写真票	本冊子とじ込みの用紙に必要事項を記入の上, 写真票に写真(3か月以内に撮影したもの)を貼ること。 受験票は, 受付の際に交付する。(ただし, 出願書類を郵送した者には, 郵送で本人に交付する。) (注) 出願資格(1)及び(2)以外の者は, [別紙 履歴]も提出すること。
②	学業成績証明書	学部におけるもの。 日本語又は英語以外で作成されている場合は, 日本語又は英語の訳文を添付すること。 本学工学部在籍者及び卒業者は提出不要。 (注1) 高等専門学校専攻科在籍者及び修了者は, 本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 (注2) 大学に編入学した者は, 編入学前の教育機関の成績証明書も提出すること。本学工学部在籍者は提出不要。
③	卒業証明書又は 卒業見込証明書	日本語又は英語以外で作成されている場合は, 日本語又は英語の訳文を添付すること。 本学工学部在籍者及び卒業者は提出不要。 (注) 高等専門学校専攻科在籍者等の出願資格(2)により出願する者は, 学士学位取得証明書又は見込証明書を併せて提出すること。
④	学修希望調書	本冊子とじ込みの用紙(一般選抜受験者はクリーム色のものを, 筆記試験免除希望者は水色のものを使用すること。)
⑤	TOEFL又はTOEIC のスコアシート	<u>本冊子とじ込みの「TOEFL/TOEICスコアシート提出用紙」にTOEFL又はTOEICのスコアシートを貼ること。</u> (注1) 提出が必要な志願者について ① <u>筆記試験免除を希望しない志願者</u> は, 出願時(7月9日～12日)に他の出願書類と併せて提出すること。 ② <u>筆記試験免除を希望する志願者</u> で, 次の3専攻の志願者は, 出願時のスコアシートの提出は不要。 ・電気工学専攻 ・電子工学専攻 ・情報・通信工学専攻 上記3専攻以外の志願者は, 出願時(6月13日～14日)に他の出願書類と併せてスコアシートを提出すること。 なお8頁の「(2) 筆記試験免除による選抜について」も必ず熟読すること。 (注2) 外国語(英語)については, 筆記試験を実施せず, TOEFL又はTOEICのスコアで評価する。スコアシートを提出しない場合は, 出願は可能であるが, 外国語(英語)については評価されない。 (注3) スコアシートはTOEFL, TOEICどちらか一方, 又は両方の提出が可能である。 (注4) 提出されたスコアシートの返却には応じられない。また, 9頁(2)-③-B-3の「筆記試験を免除されなかった者」を除き, いかなる理由でも, 一度提出した同一種類のスコアシートの差し替えにも応じられない。 (注5) 英語を母語とする出願者は10頁11(5)の照会先まで事前に問い合わせること。 (注6) <u>TOEICのスコアシートを提出する場合</u> 提出はTOEICテストもしくはTOEIC Listening & Reading Testの原本(Official Score Certificate)に限る。「団体特別受験制度

		<p>(IP:Institutional Program)」のスコアは受け付けない。顔写真の載っていないスコアシートは原則として受け付けない。一度提出したスコアシートの差し替えや写しの返却には応じられない。</p> <p>(注7) <u>TOEFLのスコアシートを提出する場合</u> iBT (Internet-based Test) 及びPBT (Paper-based Test) のスコアを有効とする。団体向けテストプログラムであるITP (Institutional Testing Program) のスコアは受け付けない。提出は公式スコア「Official Score Report」と受験者に届く「Test Taker (Examinee) Score Report (コピー)」の両方が必要になるので以下の点に留意すること。</p> <p>①「Official Score Report」は、最終提出期限までにETSから名古屋大学に届くように所定の手続きをすること。(手続き時に名古屋大学の Institution Code 0312, Department Codeを適切に指定すること。)</p> <p>②出願書類提出時に「Test Taker (Examinee) Score Report」のコピーを提出すること。また、試験期間中この原本を必ず携帯すること。</p> <p>(注8) <u>平成28年6月1日以降</u>に実施されたTOEFL/TOEICのスコアのみ有効とする。なお、TOEICについては、5月実施分までのスコアシートのみ受け付ける。</p> <p>(注9) TOEFLの場合は、「Test Taker (Examinee) Score Report」と「Official Score Report」のいずれか一方でも期限に到着しなかった場合は、スコアシートの提出はなかったものとして扱う。</p>
⑥	卒業に必要な単位数が確認できる書類 (シラバス(授業要目)、学生便覧等該当する箇所の写)	筆記試験免除希望者のみ提出すること。 (ただし、名古屋大学工学部在籍者は提出を要しない。) 高等専門学校専攻科在籍者及び修了者は、専攻科のものを提出すること。
⑦	入学検定料 30,000円の郵便局の普通為替	出願前に、郵便局において30,000円の普通為替を作成し、為替には <u>一切記入しないこと。</u> 既納の入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。 国費外国人留学生は、入学検定料は不要。 なお、他大学から受験する国費外国人留学生は、「国費外国人留学生証明書」を提出すること。
⑧	領収証書及び同(控)	本冊子とじ込みの用紙に氏名のみ記入すること。
⑨	受験票送付用封筒	出願書類を郵送する者のみ提出すること。 本冊子とじ込みの封筒に、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入し、92円分の切手を貼ること。
⑩	可否通知用封筒	本冊子とじ込みの封筒に、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入すること。
⑪	入学手続通知用封筒	本冊子とじ込みの封筒に、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入すること。
⑫	筆記試験免除書類選考結果通知用封筒	筆記試験免除希望者のみ提出すること。 本冊子とじ込みの封筒に、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入し、82円分の切手を貼ること。
⑬	筆記試験免除可否通知用封筒	筆記試験免除希望者のみ提出すること。 本冊子とじ込みの封筒に、郵便番号・住所(日本国内)、氏名を記入すること。
⑭	(外国人のみ) 「在留カード」の両面コピー又は「住民票の写し」(原本)	「住民票の写し」の場合は在留資格、在留期間の記載されたもの(発行申請時に申し出が必要)。海外在住者においては、パスポートのコピー(顔写真のある頁)を提出し、入学手続時に必ず左記のうちいずれかを提出すること。

5 出願手続

出願者は、上記出願書類等を願書受付期間に工学研究科教務課（IB 電子情報館西棟 2 階）に提出すること。出願書類を郵送する場合は、書留郵便とし、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書し、筆記試験免除を希望する場合は、平成30年6月14日（木）16時必着で、筆記試験免除を希望しない場合は、平成30年7月12日（木）16時必着で工学研究科教務課宛に送付すること。（締切後に到着したものは受け付けない。）

〔受付場所（郵送先）〕

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院工学研究科教務課入学試験係

- ◎注意
- (1) 書類に不備がある場合には、受け付けないことがある。
 - (2) 出願手続後は、いかなる事情があっても書類の書き換え及び返却は認めない。
 - (3) 出願書類について、虚偽の申請、不正等の事実が判明した場合は、入学許可を取り消すことがある。
 - (4) 「志望系・専攻（志望専攻選択）」、「筆記試験免除」について、十分に理解して出願すること。
 - (5) 出願に際して不明な点は、10頁11(5)の照会先まで問い合わせること。

6 選抜実施方法及び試験日程

入学者の選抜は、一般選抜試験〔外国語（TOEFL/TOEIC のスコア）及び筆記試験（基礎部門・専門部門）・口頭試問〕の成績による総合評価で行う。ただし、募集人員の一部について、学業成績優秀者で、志望する専攻での勉学に高い意欲を持つ者を筆記試験免除とする専攻がある。

(1) 一般選抜試験

① 出願にあたっての留意事項

志望専攻選択について

博士前期課程学生選抜では、分野の近い1～3専攻を「系」と呼び、試験実施単位とする。

入学志願者は、志望する系（以下、志望系）を一つ選択し、同系内の専攻数分の志望順位を系内の全専攻に付けて出願すること。土木工学系は志望専攻選択が不要である。系と専攻の組合せについては、1頁の募集人員表を参照すること。

化学生命工学系の志願者は、筆記試験の基礎・専門部門について、6頁以降の試験科目欄を参照し、A群あるいはB群のどちらかを選択の上、入学志願票の専攻選択欄に記入すること。なお、基礎部門でA群を選んだ場合は専門部門もA群を、基礎部門でB群を選んだ場合は専門部門もB群を選択すること。

② 一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）日程

A 筆記試験 8月21日（火）～8月22日（水）

1) 8月21日（火）13時30分から16時30分※ 基礎部門

※ただし、有機・高分子化学専攻、応用物質化学専攻、生命分子工学専攻においてB群の問題を選択した場合については、13時30分から15時。

試験科目		
系	専攻	試験科目
化学生命工学	有機・高分子化学	下記のA群あるいはB群の問題を選択すること。 (基礎部門でA群を選んだ場合は専門部門もA群を、基礎部門でB群を選んだ場合は専門部門もB群を選択すること。)
	応用物質化学	A群; 下記の4科目を解答する。 基礎物理化学, 基礎有機化学, 基礎無機化学, 基礎分析化学
	生命分子工学	B群; 下記の2科目を解答する。(詳細は専攻案内を参照すること。) 有機化学, 生化学1
物理工学	応用物理学	・数学(線形代数, 常微分方程式, 微分・積分, 初等ベクトル解析) ・力学(質点系の力学, 微小振動, 剛体の運動)
	物質科学	・電磁気学(静電気学, 定常電流, 電流と磁界, 静磁場, 電磁誘導)
マテリアル工学	材料デザイン工学	下記3科目全科目を解答する。なお、出題範囲は()内とする。
	物質プロセス工学	1) 数学(微分・積分, 常微分方程式, 線形代数, ベクトル解析)
	化学システム工学	2) 物理学(質点系力学, 剛体の運動, 波動と干渉, 電磁気学入門(静電界と静磁界, 電流と磁界, 電磁誘導)) 3) 化学(原子構造と周期律, 物質の構造と化学結合, 化合物の性質と反応, 酸と塩基, 酸化と還元, 化学反応速度)
電気電子情報工学	電気工学	下記の2科目から数学3問, 電磁気学2問を出題する。計5問から3問を選択して解答する。出題範囲は()内とする。出題範囲の詳細については専攻案内を参照すること。
	電子工学	
	情報・通信工学	
機械・航空宇宙工学	機械システム工学	数学(解析・代数から出題, 全問解答), 物理学(力学1問, 電磁気学1問を出題, 2問の中から1問を選択して解答) (詳細を「受験に際しての注意事項」で確認すること)
	マイクロ・ナノ機械理工学	
	航空宇宙工学	
エネルギー理工学	エネルギー理工学	下記3科目から5問出題し, 全問に解答する。 - 数学(微分積分, 線形代数学, ベクトル解析, 微分方程式) 2問
	総合エネルギー工学	- 物理(質点系の力学, 剛体の運動, 波動と干渉, 静電界と静磁界, 電流と磁界, 電磁誘導) 2問 - 化学(無機化学, 物理化学, 化学熱力学) 1問
土木工学	土木工学	応用数学, 小論文(詳細は専攻案内を参照すること)

2) 8月22日(水) 9時から12時※ 専門部門

※ただし, 土木工学専攻については, 9時から13時。

試験科目		
系	専攻	試験科目
化学生命工学	有機・高分子化学	<p>下記のA群あるいはB群の問題を選択すること。 (必ず基礎部門と同じ群を受験すること。)</p> <p>A群; 下記の4科目から8問を出題し, うち4問を解答する。</p> <p>物理化学 2問, 有機化学 2問, 無機化学 2問, 分析化学 2問</p> <p>B群; 下記の2科目を解答する。(詳細は専攻案内を参照すること。)</p> <p>生体高分子化学, 生化学2</p>
	応用物質化学	
	生命分子工学	
物理工学	応用物理学	<p>下記の5科目より各科目1問, 全5問出題し, うち2問を選択, 解答する。</p> <p>1) 量子力学 (波動方程式, 固有値問題, 角運動量, 原子, 摂動論および変分法, 分子)</p> <p>2) 熱・統計力学 (気体分子運動論, 熱と仕事, 熱力学関数, 状態和, ボルツマン統計, フェルミ統計とボーズ統計, 相互作用する系)</p> <p>3) 物性物理学 (結晶構造, 回折現象, 格子振動, 自由電子模型, 周期場の電子, 電気伝導, 半導体の性質, 分極と誘電的性質, 常磁性と反磁性)</p> <p>4) 材料物理学 (状態図, 相平衡, 相変態, 材料の組織, 格子欠陥, 拡散, 材料の弾性と塑性, 転位とすべり)</p> <p>5) 応用数学 (フーリエ解析, ラプラス変換, 複素関数論, 偏微分方程式)</p>
	物質科学	
マテリアル工学	材料デザイン工学	<p>下記の12分野より, 各1問ずつを出題する。受験生は, 12問中の5問を解答すること。</p> <p>1) 材料化学 7) 反応工学</p> <p>2) 固体物性論 8) プロセス工学</p> <p>3) 結晶物理学 9) 伝熱操作</p> <p>4) 材料の力学 10) 拡散操作</p> <p>5) 材料組織学 11) 流体操作</p> <p>6) 物理化学 12) 固気・固液操作</p> <p>(詳細は, 「受験に際しての注意事項」(大学院受験参考資料)を参照すること)</p>
	物質プロセス工学	
	化学システム工学	
電気電子情報工学	電気工学	<p>下記の2グループ, 計6科目から, 各1問を出題する。計6問から3問を選択して解答する。</p> <p>ただし, グループ1からの選択数は2問以下とする。</p> <p>・グループ1: 電気回路, 電子回路, 論理回路</p> <p>・グループ2: 電気エネルギー工学, 電子物性論, 情報理論</p> <p>出題範囲の詳細については, 専攻案内を参照すること。</p>
	電子工学	
	情報・通信工学	

機械・航空宇宙工学	機械システム工学	下記6科目から3科目選択して解答する。 熱工学, 流体力学, 振動工学, 制御工学, 材料力学, 電気回路 【熱工学】熱平衡と温度, 理想気体, 熱力学第1法則, 熱力学第2法則, 熱サイクル, 熱力学関数, 相平衡 と化学平衡 【流体力学】静水力学, 質量保存, 運動量保存, ベル ヌーイの式, 内部流れと損失 【振動工学】自由振動と強制振動, 1自由度系の振動, 固有角振動数, 多自由度系の振動, モードベクトル, 動吸振器, モード解析 【制御工学】伝達関数, 過渡応答, 定常特性, 周波数 応答とボード線図, 安定判別法と安定余裕, フィー ドバック制御系設計 【材料力学】応力とひずみ, 引張と圧縮, 熱応力, ト ラス, 組合せ応力, 主応力, はりの曲げ, 棒のねじ り, 柱の座屈, ひずみエネルギー 【電気回路】直流回路網, 交流回路網, 複素記号法, 複素インピーダンス, ベクトル軌跡, 共振現象, 回 路網における諸定理, 二端子対回路, 過渡現象論
	マイクロ・ナノ機械理工学	
	航空宇宙工学	
エネルギー理工学	エネルギー理工学	下記, (1)と(2)を解答すること。ただし, (1)は必 答とし, (2)は一分野を選択するものとする。 (1) エネルギーに関する総合問題 (小論文を含む) (2) 「材料科学」(物性物理学, 統計力学, 量子力学) 「原子核工学」(放射線保健物理学, 放射線計測 学, 原子核物理, 原子炉物理学, 原子力燃料サ イクル) 「機械工学」(材料力学, 流体力学, 熱工学) 「電気工学」(電気回路, 電磁気学)
エネルギー理工学	総合エネルギー工学	
土木工学	土木工学	専門部門 A (土木系)と専門部門 B (土木系以外)と に分けて試験を実施する。(詳細は専攻案内を参照す ること)

(注) 1. 試験の解答は黒色鉛筆又はシャープペンシルに限る。

2. 計算機類等及び辞書類は, 専攻の指示 (試験科目欄参照) がある場合以外は使用できない。

B 口頭試問 8月23日(木)~8月24日(金)

詳細な時間, 実施方法等は, 各専攻からの専攻案内 (又は, 受験に際しての注意事項) で別途指示する。

(2) 筆記試験免除による選抜について

入学者の選抜は, 一般選抜試験〔外国語 (TOEFL/TOEIC のスコア) 及び筆記試験 (基礎部門・専門部門)・口頭試問〕により行う。ただし, 募集人員の一部について, 学業成績優秀者で, 志望する専攻での勉学に高い意欲を持つ者を筆記試験免除とする専攻があるので, 下記の留意事項に注意して出願すること。

① 出願にあたっての留意事項

筆記試験免除を実施する専攻は, 2頁の3〔表〕のとおりである。

筆記試験を免除されなかった場合は, 第1志望専攻の筆記試験を受験すること。

② 出願書類

3頁4 出願書類等を参照すること。

③ 筆記試験免除者選抜の実施

- A 筆記試験免除者の選抜は、「書類選考」及び「面接試験」の2段階により行う。
- B 筆記試験免除者の選抜は、次により行う。

- ・書類選考 6月下旬～7月上旬 結果は7月6日（金）に本人宛に発送する。
- ・面接試験 平成30年7月21日（土） 結果は7月27日（金）に本人宛に発送する。
 - 1) 面接試験を受験する者は、受験票を携帯すること。
 - 2) 筆記試験を免除された者は、一般選抜試験の口頭試問を受けなければならない。詳細については、筆記試験免除の結果通知に同封する。
 - 3) 筆記試験を免除されなかった者は、5頁の6(1)の一般選抜試験（筆記試験・口頭試問）を受験することになる。この場合、出願書類は、再度提出する必要はない。ただし、TOEFL/TOEIC のスコアシートについては、下記のとおりとする。
 - ・電気工学専攻，電子工学専攻，情報・通信工学専攻以外の志願者：
TOEFL/TOEIC のスコアシートの再提出を8月2日（木）17:00まで認める。
 - ・上記3専攻の出願者：
8月2日（木）17:00までに TOEFL/TOEIC のスコアシートを工学研究科へ提出する必要がある。
なお，期限までにスコアシートが到着しなかった場合は，スコアシートの提出はなかったものとして扱う。
 - ・TOEIC については，5月実施分以前のスコアシートのみ受け付ける。TOEFL は，7月の出願期間最終日（7月12日）までに発行済みの「Test Taker (Examinee) Score Report」で，なおかつ，8月2日（木）までに「Official Score Report」が大学に到着しているものとする。
 - ・郵送により提出する場合は，各自で封筒を用意し，「スコアシート在中」と朱書きし，郵便局の特定記録で発送すること。提出先は，5頁「5 出願手続〔受付場所（郵送先）〕」と同じである。
 - ・その他，スコアシートの提出に関する注意事項は，3頁⑤を熟読すること。

7 試 験 場

名古屋大学大学院工学研究科 名古屋市千種区不老町

（裏表紙のキャンパスマップ参照：詳細は，願書受付時に配布する試験場案内を参照すること）

8 合格者発表

平成30年9月7日（金）正午（各専攻とも本研究科教務課前掲示板に掲示するとともに合否結果を本人宛に発送する）

9 入 学 手 続

入学手続に関する詳細については，平成31年3月上旬に通知する。

- (1) 手続日：平成31年3月下旬
- (2) 場 所：名古屋大学大学院工学研究科教務課（IB 電子情報館西棟2階）

10 授業料等学生納付金

- (1) 入学料 282,000円〔予定額〕
入学手続時に納付すること。
ただし，国費外国人留学生は入学料を要しない。

- (2) 授業料 前期分 267,900円 (年額 535,800円)〔予定額〕
 授業料は、前期及び後期の2期に分けて納入する。
 また、納付については、授業料口座振替(代行納付制度)により取り扱う。
 ただし、国費外国人留学生は授業料を要しない。
- (注) 入学時又は在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな学生納付金額が適用される。

11 その他注意事項

- (1) 官公署に在職の者は、原則、入学試験に合格しても退職しなければ、入学することはできない。
- (2) 障害がある者等で、受験上特別な配慮を必要とする者は、平成30年5月23日(水)までに、下記(5)の照会先まで申し出ること。
 なお、修学上特別な配慮を必要とする者も同様に申し出ること。
- (3) 大学院入学案内冊子「工学研究科への道」及び志望専攻の「専攻案内」の郵便を希望する者は、宛名を明記し、切手(215円)を貼った返信用封筒(角形2号)を同封し、志望専攻名及び連絡先電話番号を明記して郵送にて請求すること。
- (4) 本研究科は平成29年度に改組したので、関連する改組前の専攻(分野)の試験問題の請求については、本研究科ホームページを参照又は各専攻事務室に照会すること。

各専攻事務室の連絡先

専攻	電話	FAX	Eメールアドレス	場所	巻末のキャンパスマップ建物番号
有機・高分子化学 応用物質化学 生命分子工学	052-789-4276 052-789-2660	052-789-3180	jimu@chembio.nagoya-u.ac.jp	工学研究科(工) 1号館2F	①
応用物理学 物質科学	052-789-4469 052-789-3562	052-789-3724	office@ap.pse.nagoya-u.ac.jp office@mp.pse.nagoya-u.ac.jp	(工)3号館中館 2F	③
材料デザイン工学 物質プロセス工学 化学システム工学	052-789-2761	052-789-3225	jimu@numse.nagoya-u.ac.jp	(工)5号館2F	⑤
電気工学 電子工学 情報・通信工学	052-789-3643	052-789-3134	jimu@nuee.nagoya-u.ac.jp	IB電子情報館 北棟1F	④
機械システム工学 マイクロ・ナノ機械理工学 航空宇宙工学	052-789-3301	052-789-3111	mehc@mech.nagoya-u.ac.jp micro@mech.nagoya-u.ac.jp kokujimu@nuae.nagoya-u.ac.jp	(工)2号館中館 3F	②
エネルギー理工学 総合エネルギー工学	052-789-3399	052-789-3225	qjuken@energy.nagoya-u.ac.jp	(工)5号館2F	⑤
土木工学	052-789-3735	052-789-3736	jimu@civil.nagoya-u.ac.jp	(工)8号館北棟1F	⑥

- (5) 入学試験に関する照会先
 名古屋大学大学院工学研究科教務課 (IB電子情報館西棟2階)
 〒464-8603 名古屋市千種区不老町
 電話 (052) (789) 3978・3974 e-mail:eng-admission@adm.nagoya-u.ac.jp
- (6) すべての筆記試験において、途中退室は認められない。
- (7) 災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページにより周知するので、出願前や受験前は特に注意すること。

工学研究科ホームページ

URL <http://www.engg.nagoya-u.ac.jp>

携帯電話用 <http://www.engg.nagoya-u.ac.jp/cellular/bb/>



(携帯用)

12 個人情報の取り扱い

住所・氏名・生年月日その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項にのみ利用する。また取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には利用しない。

出願資格(9)により出願する者について

(学部3年次在学者を対象とする選抜)

1) 出願資格(9)により出願する者は、

次の要件を満たす者であること。

平成31年3月末日までに大学に3年以上在学し、本学大学院が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者。

2) 募集人員 若干名

3) 事前照会(審査)

出願資格(9)により出願する者については、あらかじめ次の書類を平成30年5月23日(水)までに、工学研究科教務課〔10頁の11(5)照会先を参照)へ提出又は郵送(書留郵便で封筒の表に「出願資格(9)事前審査申請」と朱書)し、出願資格の有無について事前照会すること。

- (1) 出願資格(9)による出願資格事前審査願(本冊子とじ込みの用紙)
- (2) 在学証明書
- (3) 学業成績証明書(在籍大学において、学部2年後期までのもの)
- (4) 推薦書(本冊子とじ込みの用紙に、在籍大学において学科主任、指導教員等が記載し厳封したもの)
- (5) 在籍大学学部・学科の履修要覧(要項)等(写し可)(本学部在籍者は提出を要しない)

本研究科で事前審査を実施し、その結果は平成30年5月31日(木)に本人宛に発送する。

4) 出願書類等

上記事前審査の結果、出願資格有と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、2頁3及び3頁4を参照すること。

(注) 1. 出願書類のうち、すでに事前審査で提出している学業成績証明書は不要である。

(注) 2. 出願は、第1志望専攻のみ認められる。

5) 選考方法

一般選抜試験〔外国語(TOEFL/TOEIC)のスコア)及び筆記試験(基礎部門・専門部門)・口頭試問]の総合審査によって行う。

第1次選考

5頁～8頁の「(1)一般選抜試験」に基づき受験すること。

第2次選考

第1次選考合格者について、学部3年次までの成績等によって選考するので、平成31年1月30日(水)までに、以下の書類を工学研究科教務課へ提出すること。

- ① 学部3年前期までの学業成績証明書(本学部在籍者は不要)
- ② 学部3年後期分履修申告確認票(写)等(本学部在籍者は不要)(履修申告した授業科目等を記載したものの写)

6) 合格者発表

第1次選考合格者

平成30年9月7日(金)正午

(本研究科教務課前掲示板に掲示するとともに合否結果を本人宛に発送する)

第2次選考合格者

平成31年3月中旬

(本研究科教務課前掲示板に掲示するとともに合否結果を本人宛に発送する)

7) 入学手続

入学手続についての詳細は、合否結果通知時に併せて通知する。

手続日は、平成31年3月末に行う。

8) その他注意事項

① 合格者は、平成31年3月末までに、学部3年終了時までの学業成績証明書を工学研究科教務課へ必ず提出すること。

② 本受験資格により入学する者は、在籍大学を退学することになるため、種々の国家試験等の受験資格で大学の学部の卒業を要件としているものについては、受験資格がなくなるので、注意すること。

出願資格(10)により出願する者について

1) 出願資格(10)により出願する者は、

本研究科において、大学卒業と同等以上の学力があると認められた者で、平成31年3月末日までに22歳に達する者であること。

2) 個別審査

出願資格(10)により出願する者については、あらかじめ次の書類を平成30年5月23日(水)〔必着〕までに、工学研究科教務課〔10頁の11(5)照会先を参照〕へ提出又は郵送(書留郵便で封筒の表に「博士前期課程事前審査申請」と朱書)し、出願資格の有無についての個別審査を願い出ること。

本研究科で個別審査を実施し、その結果は平成30年5月31日(木)に本人宛発送する。

(1) 出願資格(10)による出願資格個別審査願(本冊子とじ込みの用紙に、本人が記載・捺印)

(2) 履歴書(本冊子とじ込みの用紙に、本人が記載・捺印)

(3) 大学を卒業した者と同等以上の学力があることを示す資料

(a) 履歴に短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の学歴を有する者

これらについての卒業又は修了証明書(今年度中に卒業又は修了する見込の者については、その証明書)、学業成績証明書及びシラバス(授業要目)

(b) 履歴に技術的・専門的職業についての職歴を有する者

その期間及び職務内容を明記した在职証明書

(c) 履歴に研究歴を有する者

研究歴証明書(本研究科交付の用紙に、所属の長等が証明したもの)、研究実績調書(本冊子とじ込みの用紙に、本人が記載)及び、研究成果報告書(本冊子とじ込みの用紙に、本人が4,000字程度で作成、論文形式とする)

(d) 業績として学術論文、著書、研究発表、特許、作品等を有する者

その写し

(4) その他、審査の参考となる資料(自薦、他薦による推薦書など)

3) 選考方法

(1) 一般選抜試験〔外国語(TOEFL/TOEICのスコア)及び筆記試験(基礎部門・専門部門)・口頭試問〕の総合審査によって行う。

(2) 5頁～9頁の「6 選抜実施方法及び試験日程」に基づき受験すること。

4) 出願書類等

上記個別審査の結果、出願資格有と判定された者の願書受付期間及び出願書類等は、2頁3及び3頁4を参照すること。

なお、出願期間は2頁のとおり2種類あり、筆記試験免除の希望の有無により異なるので、注意すること。

平成31年度 名古屋大学大学院工学研究科概要

大学院は学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与するとともに学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成することを目的とする。本研究科には博士前期課程及び博士後期課程をおき、その修業年限は博士前期課程は2年、博士後期課程は3年を標準とする。博士前期課程では学識及び研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養い、博士後期課程では研究者として、自立して研究活動を行うに必要な高度の能力及び豊かな学識を養うものである。

本研究科、各専攻の主な内容は次のとおりである。

専攻名	内 容	
有機・高分子化学専攻	有機構造化学, 有機合成化学, 有機反応化学, 触媒有機合成学, 高分子物性学, 機能高分子化学, 高分子組織化学, 超分子・高分子化学	
応用物質化学専攻	理論・計算法学, 触媒設計学, 材料設計化学, エネルギー変換化学, 構造機能化学, 機能材料化学, 機能物質工学	
生命分子工学専攻	ナノバイオ計測化学, 生体分子応用化学, 生命超分子化学, 遺伝子工学, 生物化学工学, 分子生命環境プロセス, 構造生物工学	
応用物理学専攻	物性基礎工学, 量子物性工学, 光物理工学, 数理工学, 構造物性工学, 磁性材料工学, 電子線ナノ物理工学, 生物物理工学, ナノ物性工学	
物質科学専攻	高圧力物質科学, 電子機能材料, ナノ電子デバイス工学, ナノスピン物性工学, 量子ビーム物性工学, 材料設計工学, レオロジー物理工学, ナノ顕微分光物質科学, フロンティア計算物質科学 ^b	※
材料デザイン工学専攻	計算組織学 ^{a,b} , 構造金属材料解析設計, 構造形態制御工学, ナノ構造制御学, シンクロトロン光応用工学, 環境材料工学, ナノイオニクス設計工学, 界面制御工学	※
物質プロセス工学専攻	プロセス情報工学, 化学物性応用工学, 移動現象制御工学, 結晶成長情報工学 ^b , 材料複合プロセス工学 ^a , 材料界面工学, エネルギー・環境材料創製工学, エネルギー創生・貯蔵材料工学	※
化学システム工学専攻	循環システム工学, 分離融合システム工学, 化学エネルギーシステム工学, 化学反応システム工学, 材料高温化学, システム材料加工工学, 材料電気化学, 界面・反応動力学	
電気工学専攻	大電流エネルギー工学, 電気エネルギー変換工学, 電力機器・エネルギー伝送工学, エネルギーシステム工学, プラズマエネルギー工学, 機能性・エネルギー材料工学, 核融合電磁物性工学, 宇宙電磁観測, 宇宙情報処理	
電子工学専攻	プラズマエレクトロニクス, プラズマナノプロセス科学, 先端プロセス, 知能デバイス, 機能集積デバイス, 先端デバイス, 量子光エレクトロニクス, 量子集積デバイスシステム, 光エレクトロニクス, ナノ情報デバイス ^b , ナノスピンドバイス, ナノ電子物性, ナノ電子デバイス ^b	※
情報・通信工学専攻	画像情報学, 情報ネットワーク, 先端情報環境, 無線通信システム, コンピュータ・アーキテクチャ, インテリジェントシステム, コンピュータショナル・インテリジェンス, 制御システム	
機械システム工学専攻	熱制御工学, 環境・エネルギー工学, 統計流体工学, バイオメカニクス, 計算力学, 機械力学, 自動車安全工学, 支援ロボティクス, 数理システム制御, 生体システム制御, モビリティシステム	
マイクロ・ナノ機械理工学専攻	マイクロ・ナノプロセス工学, 生産プロセス工学, 材料強度・評価学, ナノ計測工学, マイクロ熱流体工学, バイオロボティクス, 知能ロボット学	

航空宇宙工学専攻	流体力学, 衝撃波・宇宙推進, 推進エネルギーシステム工学, 構造力学, 生産工学, 制御システム工学, 航空宇宙機運動システム工学, 先進複合材料, 工作機械工学
エネルギー理工学専攻	エネルギー機能材料工学, エネルギーナノマテリアル科学, 大規模シミュレーション, レーザー応用工学, 応用核物理, エネルギー量子計測工学, エネルギー物性解析工学, エネルギー熱流体工学, 核融合プラズマ電磁流体工学, 量子ビーム物性工学, 量子ビーム計測工学, ナノプロセス, 環境機能材料工学
総合エネルギー工学専攻	核融合プラズマ物理工学, 核融合物理工学, プラズマ物性工学, 原子力安全工学, 革新炉設計, 原子炉特性測定・診断, 中性子工学, 放射線応用工学, 核エネルギーシステム, エネルギー環境安全工学, 原子力化学工学, 原子力環境技術
土木工学専攻	構造工学, 材料・形態学, 海岸・海洋工学, 流域保全学, 地盤工学, 国土防災安全工学, 地圏環境保全学, 社会基盤計画学, 社会基盤設計学, 社会基盤維持管理学, 国際環境協力学, 国土デザイン学

※a：産総研連携大学院講座を含む，b：NIMS 連携大学院講座を含む

本研究科博士前期課程において、基礎科目、専門科目、総合工学科目等で、所定の学科目で30単位以上を修得し、かつ学位論文の作成等に対する指導を受けたうえ論文を提出して学位試験に合格した者には、修士（工学）の学位を与える。

博士前期課程又は修士課程を経たうえ、さらに選考により博士後期課程に進学又は入学することができる。博士後期課程において、専門科目につき所定の単位を修得し、かつ、学位論文の作成等に対する指導を受けたうえ論文を提出し学位試験に合格した者には、博士（工学）の学位を与える。